

尾形光琳「夢中富士図」初公開

長年にわたり所在不明とされてきた掛け軸

諏訪市のサンリツ服部美術館で14日、特別企画「描き継がれる日本の美 琳派」の後期展が始まった。江戸時代に活躍した絵師、尾形光琳（1658～1716年）の「夢中富士図」を含む4点を初公開。同館は「長年にわたり、琳派研究者らに所在不明とされてきた掛け軸だが、近年寄贈を受け公開に至った」としている。

光琳の夢中富士図は1699年作。軽妙な筆遣いで富士山の高嶺を描き、右半分に書を添えている。光琳が西本願寺を訪れ、夢で見た富士山について話し、描いたが、これもまた夢であったと記されている。40歳ごろに画業を志した光琳の初期作品は現存数が少なく、当時の落款、筆跡を知



初公開となる尾形光琳の「夢中富士図」②サンリツ服部美術館

サンリツ服部美術館 琳派後期展始まる

ることができる。

東京大学名誉教授の河野元昭さん「神奈川県」によると、これまで琳派研究者の論文などで存在こそ知られていたが、小さな挿図のみで実見はできなかったという。

隣には江戸後期の絵師、鈴木其一（1796～1858年）の「三保松原図」を初めて展示。夢中富士図と同じ文章や書風から、光琳の影響をうかがい知ることのできる作品で、同図とともに保管され、現代に伝わったとされる。光琳の同図を収めた箱には、其一による書付がある。同館は「光琳が後の世に与えた影響が分かり、琳派研究の発展にもつながる」と話す。

本展は前後期合わせて56点を展示。琳派は、本阿弥光悦や俵屋宗達を祖とし、光琳によつて発展。酒井抱一、其一が江戸に定着させた。

午前9時30分～午後4時30分。休館は祝日を除く月曜日。入館料は大人1200円、小中学生400円。問い合わせは同館（電話0266・57・3311）へ。（小山真由美）